

## あ い さ つ

伊勢崎市教育委員会  
教育長 徳江 基行

伊勢崎市立名和小学校では、平成27・28年度の2年間にわたり、文部科学省道徳教育総合推進事業の指定校として、「ともによりよく生きようとする児童の育成－思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善を通して－」を研究主題として研究を進めてまいりました。この度、これまでの研究成果を発表できますことは、大きな喜びです。

現在は、学習指導要領の一部改訂により、小学校では、平成30年度の「特別の教科道徳」の完全実施に向けた移行措置の期間にあります。発達の段階に応じ、答えが一つでない道徳的な課題を子ども一人一人が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換が求められています。また、各学校においては、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的な指導となるような内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなど指導方法の工夫をさらに充実させていく必要があります。子どもたちは、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を身に付けていきます。

名和小学校では、学校長のリーダーシップの下、道徳教育推進教師が中心となり、これからの道徳の在り方を模索しながら研究主題に迫りました。授業づくりでは、取り上げる価値の分析、中心発問を核とした補助発問の精選など指導法を工夫してまいりました。また、道徳学習指導案の書き方を見直し、その授業における確かな指導観を具体的に整理できるようにしました。さらに、子どもたちの実態調査や別葉の改善、体験的な活動や道徳的実践の場の充実などにより、事前・本時・事後による道徳教育の充実を図ってまいりました。そして、確かな指導観に基づいた授業実践、学年やブロックでの授業研究会を重ね、指導技術を研鑽してまいりました。思いや考えを伝え合い、互いに価値の自覚を深めていく子どもたちの姿こそが研究の成果と考え、全教職員が共通理解・共通実践を繰り返して本日を迎えました。

研究の成果は、公開授業と研究紀要とでご確認いただき、研究会では、活発な討議が展開されますようお願いいたします。本研究が、広く市内外の道徳教育の改善・充実に寄与されますことをご期待申し上げます。

結びに、本研究の推進にあたり、多大なるご指導・ご助言を賜りました文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 赤堀博行先生、元全国小学校道徳教育研究会会長 東京福祉大学特任教授 福田富美雄先生、群馬大学教授 黒羽正見先生、群馬県教育委員会、中部教育事務所及び関係各位の皆様、本研究を支えて下さった保護者や地域の皆様に厚くお礼申し上げます。あいさついたします。